

第 588 回琵琶湖海区漁業調整委員会結果概要

◎第 588 回琵琶湖海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

開催日時 : 令和 4 年 2 月 1 日 (火) 14:00 ~ 15:30

開催場所 : 県庁本館 4 A 会議室

出席者 : 委員 9 名、水産課 5 名、水産試験場 1 名、事務局 5 名

(1) 協議事項

1. 第 8 次栽培漁業基本計画について

- ・沿岸漁場整備開発法に基づき 7 次にわたって策定してきた栽培漁業基本計画の終了に伴い、次に策定する第 8 次栽培漁業基本計画の原案について、水産課から説明がありました。
- ・ホンモロコが放流対象から外れた理由、およびワタカの放流を続ける理由について委員から質問がありました。ホンモロコについては資源量が回復しており、放流による増殖から資源管理による再生産の促進へ舵を切ったこと。ワタカについてはゲンゴロウブナと併せて琵琶湖の健全な状態維持に重要であることから放流を続けることとした旨の説明が水産課からなされました。
- ・加えて、委員からはもっと実態に即した放流計画を立ててほしいという意見、および増加したホンモロコ資源の維持のため、増加の要因を把握しておくべきだという意見がありました。水産課はこれらの意見を踏まえたうえで基本計画の案を作成し、諮問していく方針を示しました。

(2) 諮問事項

1. 小型機船底びき網漁業の許可の制限措置および申請期間について

2. 手繰第 3 種漁業（貝びき網漁業）の許可の有効期間の短縮について

- ・小型機船底びき網漁業（手繰 1 種・3 種漁業）の許可の一斉切替えに伴い、各漁業の制限措置および許可等の申請期間を設けることについて、水産課から諮問がありました。加えて、資源管理と連動した許可制度とするため、手繰 3 種漁業の許可の有効期間を通常より短縮することについて説明されました。
- ・委員からは、使用船舶の推進機関馬力数を 127 キロワット以下とする制限措置の緩和の意見がありました。水産課は他県の研究結果を根拠として推進機関の馬力数の緩和は資源管理上難しいとしました。一方で委員から、推進機関ではなく漁具の大きさ等他の要素から資源管理を図り、馬力数は航行中の危機回避のためにも制限を緩和するべきとする意見がありました。水産課はそれらも含めて資源管理の中で検討するとしてしました。

3. 小型機船底びき網漁業の許可の基準について

- ・小型機船底びき網漁業は許可の定数に上限があるため、それを超える許可の希望者があった際に、優先順位をつけて許可をするための基準が水産課から説明されました。
- ・委員から、漁業者以外の者が許可を得た場合に漁場を荒らすことが危惧されるため、許可の対象者を漁協組合員に限定できないか、との意見がありました。これに対し水産課は、そのような限定をすることは困難である一方、漁業を営

む意思が無い者は許可の対象ではないとし、現に当該漁業を営んでいる者の優先順位を高くしつつ漁業の実績が無い者は低い優先順位となるよう、許可の基準を定めたいと説明しました。そのうえで、主要漁業の許可については許可数を実態より多くせず、資源管理上必要な人数に絞る必要があるとしました。

- ・ 諮問事項 1～3 はそれぞれ同意され、異議なく答申されることとなりました。

4. 刺網漁業の許可の申請期間について

- ・ 刺網漁業の許可は令和 3 年 11 月 1 日に一斉切替えを実施しましたが、その後複数の漁協および漁業者から追加で許可の取得希望がありました。これに対し新たに刺網漁業の許可等申請期間を設けることについて、水産課から諮問がありました。
- ・ 本来の定数漁業許可のあり方とは異なる例外的な諮問ですが、許可の定数に余裕があること、琵琶湖の漁業生産の拡大のための判断であること、および 11 月に行われた一斉切替えと同様に新規就業者と複数漁船での操業希望者のいずれも申請ができる旨を水産課が説明し、諮問は異議なく答申されることとなりました。

(3) 報告事項

1. アユ資源の状況について

- ・ 水産試験場が本年 8 月下旬から 11 月上旬にかけて行った産卵調査は、合計産卵数が 156.2 億粒となり、うちピークは 9 月中旬頃で、平年よりやや早い時期となりました。平年比の 221.9%という大きな増加の理由については、親魚の多さとピーク時の良好な河川環境によるものとされました。また、ヒウオ生息状況調査は 10 月から 2 か月間かけて第 3 次調査まで完了し、第 3 次調査時点で 179 尾/網となり、平年値の 9.9 倍と大幅に増加しました。
- ・ しかし、同年 12 月 1 日のヒウオの体長は平年より小さく漁獲が低調で、今後の降雪による水温低下の影響が懸念されるため、注意深く調査を続けるとしました。
- ・ 委員から、雪による水温低下とそれに伴うアユの餌（プランクトン）の減少を懸念する意見がありました。水産試験場は、琵琶湖で全層循環が起きると栄養塩が巻き上がってプランクトンの生育に良い影響が期待できるとしながらも、水温が低下しすぎると悪影響が出るため注意深く見ていきたいとしました。